

平成27年度

# 自己評価報告書

平成28年3月17日

学校法人タイケン学園

日本ペットアンドアニマル専門学校

評価委員	委員長	所属	日本ペットアンドアニマル専門学校	氏名	齋藤	雅昭
	委員	所属	日本ペットアンドアニマル専門学校	氏名	山本	優子
	委員	所属	日本ペットアンドアニマル専門学校	氏名	中辻	良太
	委員	所属	日本ペットアンドアニマル専門学校	氏名	小松	恒久

## 目 次

基準 1	教育理念・目標	1
基準 2	学校運営	2
基準 3	教育活動	3～4
基準 4	学習成果	5
基準 5	学生支援	6
基準 6	教育環境	7
基準 7	学生の受け入れ募集	8
基準 8	財務	9
基準 9	法令等の遵守	10
基準 10	社会貢献・地域貢献	11

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
・理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会ニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

教育理念、目標ははっきりと定められている。しかし、本校及び本校の卒業生を受け入れる社会や業界はめまぐるしく変化している。その変化に対応していくには、本校の教育の内容を絶えず見直していく必要がある。

②今後の改善方策

年2回開催する教育課程編成委員会と連携し、カリキュラムの確認と見直しを絶えず課題として掲げ、検討していく。

③ 特記事項

本校は、動物業界に就職を目指す職業教育を実践する専門学校としている。今後、動物業界は、就職に対し細分化、即戦力としての人材を求められるため、職業実践専門課程とすることにより、さらに一層、推し進めていきたい。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
・人事、給与に関する制度は整備されているか	4 ③ 2 1
・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
・教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

① 課題

学校運営の方針は明確に定められている。しかし、日々の学校運営の面からみると、絶えず社会の変化と動向に対応した柔軟な体制であるかどうかという点は、あえて課題として挙げるができる。

②今後の改善方策

理事長・校長と教職員管理者との意志の疎通、及び教職員管理者と一般の教職員管理者と一般の教職員との意志の疎通、この面は、本校の教育理念と目標に沿って、絶えず組織的にチェックしていくことが大事と思われる。外部委員の意見をよく聞くようにしたい。

③ 特記事項

地域に根差し、業界に直結した専門学校として、その学校運営は合理的であり、マネジメントは優れている。優れている半面、トップの判断、管理職の判断が優先するという風土に甘えやすいので、その点は、絶えず自己点検していく必要がある。

### (3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての就業 年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 ③ 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方 針の工夫。開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関連施設等、業界団体等との連携により、カリキュラ ムの作成・見直し等がおこなわれているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 ③ 2 1
・人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教育を確保 しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・業務含め） の提供先を確保するマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための教員の指導力 育成など資質向上のための取り組みが行われているか	④ 3 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

#### ① 課題

本校の教育理念と目標に沿った教育活動を日々行っているが、「きのうまでこれでよいのだから、あすもこれでよい」という安易なマンネリズムに陥りやすい。特に毎年あまり変化なく行っていて、社会の変化をみるのに鈍感になっている。今後の課題としたい。

#### ②今後の改善方策

「教育活動」の14項目の評価からも見えてくるように、今後の改善方策は次の3つが大事である。短期計画に組み入れることができるものと、中期計画で取り組むものと両方ある。

- ・学び直しの入学応募者及び入学生に対するキメの細かい学習理念

- ・生徒のキャリア形成の意欲を在学中に持たせることと生涯にわたるキャリア形成の仕組みを学内に構築し、卒業後も一対一の関係を維持していくこと
- ・授業評価のシステムを学校の体制として築き、これをステークホルダーに向け本校の特色として打ち出すこと

③ 特記事項

②の「今後の改善方法」は極めて具体的である。これを実行することが、本校の存在意義を高め、職業実践専門課程の内容を充実させることにつながると思われる

(4) 学習成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1

① 課題

資格取得率の向上、退学率の低減について、評価は3である。学校経営が厳しさを増している中、専門学校は押し並べてこの2つに積極的に取り組んでいる。本校においても、この評価項目を3から4にすることが課題である。

②今後の改善方策

- ・資格取得率の向上・・・クラス担任の卒業支援、事務部の就職支援の体制において数値管理を取り入れることを検討する。
- ・退学率の低減・・・クラス担任だけのテーマでなく、学校挙げてのテーマとし、数値管理できるように工夫する

③ 特記事項

就職率の向上については、4の評価である。就職率の向上の努力から得られたノウハウを、資格取得率の向上と退学率の低減に結びつけることは可能である。本校の学校運営の課題として中期計画の中に取り入れることが大事である。



(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の経済的側面に対する支援体制整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1
・高校・高等専門学校等の連携によるキャリア教育、職業教育の取り組みが行われているか	④ 3 2 1

① 課題

現在、本校で学ぶ学生に対する支援については、適切に行われている。視点を広げ、学生の生活環境への支援、卒業後の学生への支援という面まで見ると、課題が見えてくる。

②今後の改善方策

さらなる卒業生への就職支援、学生への生活環境の支援は、クラス担当を通しより細かい指導が必要、経済的支援に対しては、事務部と連携しての支援をよりスピーディーに取り組むことが大事である。

③ 特記事項

卒業生就職先の業界とのつながりがさらに深まるような学生支援の在り方を研究し実行することが今後の本校に求められるものと思われる。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るよう整備されているか	④ 3 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
・防災に対する体制が整備されているか	④ 3 2 1

① 課題

本校は、東武東上線成増駅から徒歩5分、住宅地の中に位置している。校舎を含む本校の施設は、地域住民の生活と融合して存在しなければならないし、本校の学生と教職員は、地域の人たちとの共生を念頭におかなければならない。今後の課題はここから見えてこよう。

②今後の改善方策

大規模な災害発生を想定した取組を具体化する。次の二つである。

- ・災害発生時に本校を地域住民に解放することを前提に、地域との協議会を立ち上げる。
- ・災害発生に備えた備蓄と学生教職員からなる人的サービス体制を地域の協議会で話し合う。

③ 特記事項

今後は、3. 1 1 東日本大震災の教訓に学び、地域と一体となった防災、安心安全の生活に向け、取り組んでいきたい。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
・学生募集活動は、適正に行われているか	4 ③ 2 1
・学生募集活動について教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 課題

学生募集活動は、単なる定員確保のための活動にとどまらず、新入学生のための入学前学習システムを構築する上で大きな意味を持っている。本校では、このことを当面の学校運営の課題とする。

②今後の改善方策

上記の課題を着実に企画し実行すること、これが何より大事である。今後の改善策である。

③ 特記事項

入学前学習は、学生サービスの重要な要素である。試行錯誤もありますが、これを学校運営の短期・中期計画に位置付け、実行していきたい。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

① 課題

過去3年間の財務諸表を見て、中長期的に将来を予測すれば、本校の財務基盤は安定していると見ることができる。もちろんそのためには、学生の確保と学生を送り出す業界の良好な評価があつてのことであるが、いまいえることは、計画したことを着実に実行するということである。

②今後の改善方策

本校は、優良な財務状況にあるので、情報を公開して、ステークホルダーから広く支持を得るよう努力することが、今後は求められるであろう。

③ 特記事項

本校の教職員は、コスト意識が極めて高い。教職員の背を見て育つ学生も、コスト意識が高い。この伝統は、今後も維持していきたい。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
・自己評価結果を公表しているか	④	3	2	1

① 課題

専門学校運営のための法令は適切に遵守されている。毎年の学校基本調査やその他の調査報告など、行政への届けは忠実に実行している。教職員は、さらに法令遵守の意識を高めたい。

②今後の改善方策

学校関係者評価を今回の職業実践専門課程の申請を機に、公開できるのは好ましい。

③ 特記事項

今回の学校関係者評価の実施を経験することにより、来年度は第三者評価を受けるよう計画している。そのための職員研修も年度計画に組み入れた。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施している	④ 3 2 1

① 課題

社会のつながりを一層推進するために、地域との協働にますます力を注ぎたい。卒業生が次々と社会に出て業界に就職していくので、この好循環を更に拡大したい。

②今後の改善方策

ボランティア活動の組織化支援や社会に向けた学生の活動を、本校の学生サービスの一環として取り入れていきたい。

③ 特記事項

公開講座や教育訓練の委託などを、学校運営の中で採算が合うように実行する方策を今後とも学んでいきたい。